

会 議 録

- 1 会議の名称 令和5年度まち・ひと・しごと創生推進会議
- 2 開催日時 令和5年8月3日（木）午後7時00分から8時00分まで
- 3 開催場所 熊取町役場北館3階大会議室
- 4 議 題 議題 令和4年度における KPI 実績値等について
- 5 公開・非公開の別 公開
- 6 傍聴者数 0人
- 7 審議会等の概要
○議題 令和4年度における KPI 実績値等について
(1) 事務局説明
委員の紹介後、事務局から本会議の趣旨及び資料に関して説明した。

(2) 委員・事務局間の意見交換
事務局からの説明後、委員・事務局間で意見交換と質疑応答を行った。内容については次のとおり。

(委 員)
・熊取町に転入してきた人に対し、転入理由に関するアンケートはとっているか。

(事務局)
・経済的なインセンティブとして、三世代で同居、近居した人に対する「三世代近居等支援補助金」があり、補助金を交付した人に対しアンケートをとっている。現在集計中だが、熊取町に住宅を取得した理由は、「親族が住んでいたから」「以前、住んだことがある」「地価が安い」「子育て、教育環境がよい」「まちのイメージがよい」などの意見があった。

(委員)
・建て替えをしている住宅が多いと感じるが、関係しているのか。

(事務局)

- ・古家を除却したうえで、新築したり、耐震化をして建て替えている方もいると思う。
- ・三世代近居同居をしたい人が多い。若い世代は、親に子育て支援を期待したり、高齢者の孤立化や引きこもりなどの社会課題があるなかで、将来的な親の介護など、社会課題に対する意識をもって自分が住む町を選んでいるのではないかと考えられる。
- ・町に愛着があると感じられるのは良い傾向である。

(委員)

- ・雇用を生み出せるような施設があればもっと良くなると思うが。

(事務局)

- ・「まち・ひと・しごと」の「しごと」の部分が弱い。
- ・産業活性化基金事業においても創業支援に力を入れているが、熊取町はコンパクトな町であるため、場所（土地）の確保という難しさがある。

(委員)

- ・働く場所について。大阪市内まで30分～1時間で出られるので住みやすい場所だとは思う。いろんな会社が活性化しないといけない。企業に対する支援（創業支援）はありがたいが、高齢の事業者も多く、跡継ぎ支援ができれば。小売業が特に深刻。今稼働しているタオル工場の数も片手で数えられるほどまでに減少している。
- ・「働く場所（しごと）は町外。」と割り切って考えるのもひとつ。

(委員)

- ・シティプロモーション事業について。B評価となっているが、子育て世代に対し、「この施策を行ったからこのような結果につながった」といえる施策を何かあるか。

(事務局)

- ・社会増減については、様々な要因があるが、例えば、医療費助成の対象年齢を、これまでの15歳から18歳に拡大した。加えて、令和5年度からは、保育料の第2子無償化を行っている。これまでは半額免除だったものを全額完全無償化している。子育て環境の充実をはじめ、安心・安全に暮らせる町をめざすとともに、国庫補助金を活用しながら道路や公園の整備も進めていくことが、結果的に社会増にもつながっているかもしれない。

(委員)

- ・明石市の元市長は、公共施設の入場料無料など子育て施策に力を入れている。思い切った子育て施策を行ってもよいのではないかと。

(委員)

- ・多少お金はかかってもいいと思う。大きな公園など、遊び場がほしい。タオル工場の跡地などを活用し、新しい場に転換することで、新しい産業が発達していくのでは。近隣自治体のように大きな公園を誘致できれば。

(委員)

- ・子どもが水遊びできる場がほしい、と以前会議で意見を出したことがある。

(委員)

- ・永楽ゆめの森公園でも親水空間の設置に関する意見がでたが、費用的に難しかった。

(事務局)

- ・下水道整備を計画的に進めており、河川の水質も改善してきている。
- ・子育て支援施策について、先ほど申し上げた医療費助成の対象年齢の拡大や保育料の第2子無償化など、熊取町も明石市に近い施策は行っているが、財源の問題がある。
- ・いかに子育て世代の方に必要な情報を届けていくかが重要であり、SNSでの積極的な情報発信やHPのリニューアルを行っている。
- ・子育て支援アプリの活用や、子育てに関するオンライン相談など、デジタルを活用した視点で取組を進め、質的な豊かさを住民の方に感じてもらい、熊取町で暮らすことに誇りをもってもらえるような施策を進めていきたい。
- ・庁内に、公有財産有効活用に関するプロジェクトチームを設置しており、すでに役割を終えた施設の有効活用を検討している。
- ・親水空間をつくれないうかが議論はしているが、財源が厳しい。

(委員)

- ・奥山雨山自然公園のもみじの広場が草だらけだった。トイレも汚かった。そのような場所を見直していけば、子どもが遊べる場所のひとつになる。

(事務局)

- ・新しいものではなく、既存のものを活用していくことも重要。
- ・奥山雨山自然公園の整備も年次計画を立てて進めている。山頂にバイオトイレを設置予定。
- ・住民団体の力を借りながら、永楽ダム周辺の桜の整備を進めている。2025年の「大阪・関西万博」の機運醸成のため、永楽ダム周辺に桜を植樹した。

(委員)

- ・ブルーベリーの状況はどうなっているか。

(事務局)

- ・ブルーベリー農園は盛況により、収穫量が減ってきたため先日閉園した。土壌改良などにより、徐々に収穫量を増やしており、今後も試行錯誤を繰り返しながら量を増やしていく予定。町としても後方支援を行っている。ブルーベリーを使った「くまとりやもん」も増えてきている。

(委員)

- ・SNSでのイベント情報の周知が遅いと感じる。もう少し早く周知してほしい。

(事務局)

- ・広報くまとりやHPでは前もって長く周知し、開催日が近くなったらSNSで再度周知、という戦略的な広報周知を行っているため、SNSでのアナウンスがイベント開催日の直前になってしまう。

(委員)

- ・広報、HPで周知しPRしているというが、細かく読んでいないと思う。SNSを活用したプッシュ型の周知を積極的に行うべき。

(事務局)

- ・紙とデジタル、それぞれの良い特徴を生かしていきたい。

(委員)

- ・情報を知るきっかけはSNSで、詳しくは広報やHPといったかたちに誘導できたらよいのでは。

(委員)

- ・熊取町の町花はひまわりだが、町内にひまわり畑はない。植えられる場所も必要になってくる。

(委員)

- ・ひまわりの種を配ってもらえたら。

(委員)

- ・和歌山に行った際、紫陽花祭りをしていて、個人の家が工夫しながら紫陽花を植えており自治体が種を配っていた。
- ・たとえば、それぞれの家でひまわりを育ててもらえたら観光の呼び水のひとつとなる
- ・熊取コロッケもテレビで放映されたあと、問い合わせが増え、完売した。今も問い合わせ

せがある。

(事務局)

- ・緑が増えることは環境面でも重要。

(委員)

- ・「歩いて楽しいまちづくり」をスローガンに商工会で数年前に取り組んだことはある。
- ・大阪観光大学に約100mほど、ひまわりを植えており、よく子どもが遊ぶ場となっている。

(委員)

- ・耕作放棄地も多く感じるので、活用できればよい。

(事務局)

- ・あらゆる情報を発信し、大学が身近な存在となれば。

(委員)

- ・学生もSNSを活用した情報発信を行っている。

(委員)

- ・38ページ。社会教育施設活動団体数も重要だが、KPIとしてはスポーツ活動人口も重要だと思う。幼少期からスポーツをはじめ、続けていけば年齢を重ねても元気でいられる。体育大学もあるので、観光の面でもスポーツを目玉とした取組があってもいいのでは。熊取町独特の取組としていいと思う。

(委員)

- ・大阪体育大学の学長はスポーツツーリズムを推進している。

(事務局)

- ・専門性の高い大学が集積している強みを生かしていきたい。

(委員)

- ・公立大学があれば自治体として強みだと感じる。

(事務局)

- ・今日の内容を事業担当課に共有するとともに、次年度報告できるように努める。

- | | | |
|----------|-------|--|
| 8 審議会の情報 | 名 称 | まち・ひと・しごと創生推進会議 |
| | 根拠法令等 | まち・ひと・しごと創生推進会議設置要綱 |
| | 設置期間 | 平成27年4月30日～ |
| | 所掌事項 | 本町における地方創生の推進にあたり、熊取町
総合戦略の策定等について意見を述べること。 |
| | 委員数 | 8人 |
| 9 担当課 | | 総合政策部企画経営課 |